

ASSOCIAÇÃO CENTRAL NIPO-BRASILEIRA

NOTÍCIAS E INFORMAÇÕES



ブラジル特報



特集

「美の大国ブラジル」

ブラジルのホステス(?)さん
美容サロンが女性も男性も急拡大
ブラジルは風味も香りも多種多様



あの町この町
ポルトアレグレ



一般社団法人 日本ブラジル中央協会

URL <http://nipo-brasil.org/> E-mail info@nipo-brasil.org

〒105-0004 東京都港区新橋 1-18-2 明宏ビル本館 5 階 TEL:03-3504-3866 FAX:03-3597-8008 発行人: 大前孝雄/編集人: 岸和田仁



三井物産株式会社 www.mitsui.com/jp



世界の未来を、ブラジルとつくる。

[Business innovation-1]

旅客鉄道事業に参画、400万人の市民の足を担う。
オデブレヒト・トランスポート社と共に、都市交通インフラを整え、都市の発展に貢献。

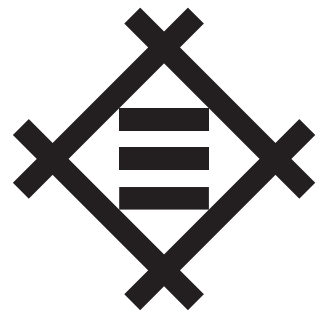
[Business innovation-2]

水力発電事業により、CO₂排出の少ないエネルギー開発を推進。
川の自然な流れを活かす流れ込み式水力発電事業を通じ、約1千万人分の電力を大都市圏へ供給。

[Business innovation-3]

ITを活用した教育事業で、次世代の人材育成に貢献。
オンライン教育事業のギーキー社に出資参画。一人ひとりの効果的な学びをサポート。

世界の未来を、世界とつくる。三井物産



MITSUI & CO.

目次

(あの町この町) ポルトアレグレ [和田好司]	3
(ブラジル・ナウ) 「第18回日伯経済合同委員会」に参加して [大前孝雄]	5
【特集】 美の大国ブラジル ブラジルのホステス(?)さん [井上章一]	6
【特集】 美の大国ブラジル 美容サロンが女性も男性も急拡大 [栗島 裕]	8
【特集】 美の大国ブラジル ブラジルは風味も香りも多種多様 [櫻村覚人]	9
日伯外交関係樹立 120 周年・記念出版 『ブラジル日系人経営者・50人の素顔』の 発刊目的とその背景 (後編) [菅野英明]	10
日伯 EPA 実現に向けたロードマップ案 経済合同委で発表された「経団連・CNI共同報告書」.....	11
連載・ブラジル現地報告 ブラジルに日本の心を伝えたい! [マルシオ・ゴメス] ...	12
(日系企業シリーズ・第 38 回) JTBグループが日伯無限の可能性へ出陣! [市川 恒]	13
(ビジネス法務の肝) 日伯経済協力とビジネスの課題 [松田純一]	14
連載★税務の勘どころ④ 《事例紹介》コマツの通関コスト削減方法 [エドアルド・ヴィートル／フェルナンド・マグリ]	15
(連載エッセイ) ブラジルに生まれて良かった [小野リサ]	16
(ウーマン・アイ) 整形手術は自慢アイテム? [斉藤真紀子]	17
(ジャーナリストの旅路) 私を育てた「ブラジルらしさ」 [石田博士]	17
(連載文化評論) レジーナ・カゼー主演の コメディ風ドラマ映画が大評判に! [岸和田仁]	18
最近のブラジル政治経済事情	19
新刊書紹介	20
(びっくり豆知識)「国連の一般討論演説は常にブラジルが1番手」 ...	20
協会からのお知らせ	21



写真家田中克佳の
「表紙のひとこと」
ブラジルには多彩な美人が多い。陽気
にして情感的で、ちょっと複雑なブラ
ジルの女性たち……。実に魅力的だ。
(65 年生まれ、早稲田大卒、博報堂入社。
93 年に退社後渡米し、独立。ニューヨー
ク在住。www.katsutanaka.com)

ポルトアレグレ

あの町、
この町

ポルトアレグレとは『愉快的港』が日本語訳であるが、本当に愉快的港だろうか?住めば都で既に 47 年、半世紀近く住んでいると色々あったが、やはり街の名前通り愉快的港と実感できる今日この頃だ。



ポルトアレグレは、正式には 1772 年 3 月 26 日にアゾーレス諸島から遣って来たポルトガル人達が拓いた街とされており、最初はポルト・ドス・カザイスと呼ばれた。従い、まだ 240 年ちょっとの歴史しかないが 2010 年のセンサスでは人口が 151 万人 (1,509,939 人) となっており近郊を含めた大ポルトアレグレメトロポリタン圏では、405 万人 (4,057,600 人) を数える大都市となっている。

特筆すべきは、日本との繋がりで、ブラジルで 4 番目に古い日本との姉妹都市提携を 1967 年に金沢市と結んでおり、2015 年 11 月 15 日に北陸新幹線開通を記念した第 1 回金沢マラソンにポルトアレグレのフォルツナッテ市長が金沢を訪問することになっている。一方来年の 2016 年には、兼六園にあることじ灯籠のレプリカを金沢市からポルトアレグレ市民に親睦のシンボルとして贈呈することになっており、現在制作中で贈呈式には金沢市長が来られることになっている。

1950 年のブラジルで初めて開催されたワールドカップがポルトアレグレのインテルナシオナルのエウカリプトスタジアムで開催され、2014 年のワールドカップでもインテルナシオナルのペイラリオスタジアムで 5 試合が行われた。サッカー好きの筆者は、この昨年のペイラリオでの全 5 試合を観戦する機会に恵まれ、とてもアレグレな気分を味わった。ブラジル選抜軍を除いてドイツ、オランダ、アルゼンチン、フランス、韓国等の試合を観戦できた。6 月 15 日のフランス戦から 6 月 30 日のドイツ戦まで歴史に残る熱狂の 16 日間に 35 万人の訪問者があった由だ。

和田好司 (さわやか商会代表)



グローバル人材の採用なら

日経HRは、日本経済新聞グループの人材情報企業として、新卒向け就職事業、社会人向け転職事業、キャリア教育事業をメインに展開しています。

日経HR独自の情報に加え、日本経済新聞社や日経BP社のコンテンツをベースに就職活動、学び、スキルアップ、キャリアデザイン、転職などのHR(Human Resources) 情報をインターネットや出版、イベントなどのクロスメディア展開により発信していきます。

日経キャリアNET

社会人のための転職サイト。日本経済新聞や日経・電子版、日経BP社の各種専門媒体を入り口としたビジネスに意欲の高い求職者と、人材を企業戦略の中核と意識する優良企業を結びつけます。



日経キャリアNET
http://career.nikkei.co.jp

キャリアコンサルティング(人材紹介)

エグゼクティブ、金融、IT系人材を中心に、人と企業をピンポイントで結ぶ人材紹介事業を展開しています。日経キャリアNETや日経グループ各媒体との運動やアライアンス・エージェントとの連携など、さまざまなご提案も行っています。

日経HR
Executive

プロフェッショナル、エグゼクティブのための転職支援サービス

20代、30代のための
転職支援サービス

日経HR
AGENT
NIKKEI HUMAN RESOURCES

日経アジアリクルーティングフォーラム

アジア9カ国のTOP大生を日本へ招待し、面接できるイベントを毎年8月に開催しています。2014年は北京大学、シンガポール国立大学、チュラロンコーン大学、インドネシア大学等、103名が来日し30名が内定獲得しました。



NIKKEI ASIAN
RECRUITING
FORUM in 東京



日経メディアで複合プロモーション

日経新聞・日経電子版、日経BP専門媒体(雑誌・Web・メルマガ・フォーラム)を活用した日経メディアの複合プロモーションで人材採用活動をお手伝いします。



仕事の先の幸せを創造する会社

日経HR
NIKKEI HUMAN RESOURCES

お問い合わせ 株式会社日経HR TEL:03-6812-7307
e-mail: webeigyo@nikkeihr.co.jp https://www.nikkeihr.co.jp



BRASIL NOW

ブラジル・ナウ

「第18回日伯経済合同委員会」に参加して



40年超の歴史を持つ経済界の政策対話

ブラジルの政治・経済が混迷を深める中、去る8月31日、9月1日の両日、ブラジル南部のポルトアレグレ市で両国経済界より総勢約300名の参加を得て日本経団連とブラジル工業連盟(CNI)による第18回日本ブラジル経済合同委員会が開催され、私は同委員会企画部会長としてこれに参加した。この委員会は1973年に第1回会合が開催されて以来40年を超える長い歴史を持つ日伯両国経済界の政策対話の場であるが、2011年の第15回会合以降、より緊密な交流を目指して年次ベースの会合となり、場所を交互に移して開催されている。

「5月賢人会議」の提言をフォローアップ

昨年8月の安倍総理のブラジル公式訪問時、両国首脳により「戦略的グローバル・パートナー」であることを確認される中、両国経済界代表が懇談会を行い貿易投資の活性化やビジネス環境整備の推進等につき意見交換した。更に、本年5月、リオで開催された「日伯戦略的経済パートナーシップ賢人会議」においては、経済合同委員会との一層の連携強化を図ることで合意するとともに、(1)日本ブラジル二国間EPA、(2)天然資源・再生可能エネルギー、(3)ビジネス環境整備と投資誘致、(4)インフラ整備等、両国経済関係の活性化に資する優先分野につき提言がなされた。今回の合同委員会ではこれをフォローアップする形で分科会方式で活発な討議が行われた。

分科会方式で優先分野を討議

(1) 日本ブラジル二国間EPA

① TPP交渉が大詰めを迎え、南米最大の経済国であるブラジルをこのような流れの中に包摂していこうとの観点から、この1年をかけて経団連とCNIの間で行った「日本ブラジル経済連携協定に関する共同研究」の報告書を発表した。

②関税の引下げのみならず、投資・サービスの自由化、知的財産権保護、ビジネス環境整備等を含む、包括的な二国間EPAの実現可能性を追求すべきであるという点で両国経済界の意見が一致した。

③共同研究報告書が、「報告書のための報告書」に終わることがないように、本年12月初旬予定されるジルマ・ルセフ大統領の

来日に向けて両国政府への働きかけを行うことを確認した。

(2) 天然資源・再生可能エネルギー

資源安全保障の観点から、日本にとって今後もブラジルが資源調達先として重要であることが再確認された(特に鉄鉱石について)。国際協力銀行(JBIC)より、天然資源開発とCO2削減の両立ならびに再生可能エネルギーに関する公的投融資への取り組み方針が紹介され、地球環境保全や持続可能な開発という視点を踏まえた日本側からの支援表明がなされた。

(3) ビジネス環境整備と投資誘致

ブラジル側より、IT産業など、今後有望な投資分野を紹介。日本側より、ブラジルの産業競争力強化に向けた課題が披露され、こうした課題克服に向けた現地日本商工会議所による政策提言活動(中小企業支援、人材育成、輸出加工区の設置、インフラ整備、電力安定供給の5つの重点分野)の進捗を報告した。

(4) インフラ整備

①ブラジルでは、大都市における旅客輸送インフラの整備が重要な課題であり、これに事業として取り組むことを目的とした両国民間企業によるJ/Vの設立が具体的成果として報告されるとともに、日本が官民連携で設立した「海外交通・都市開発事業支援機構(JOIN)」の投融資を活用したPPP案件の推進の可能性につき紹介、ブラジル経済界の理解と関心を得た。

②ブラジルは世界有数の耕作可能面積を有するものの、トラックでの長距離輸送が農作物の主な輸送手段であり、米国と比べて物流コストが平均2倍となる。この農業関連物流インフラの整備について、ブラジル側より、本年6月に発表された「ロジスティクス・インフラ投資計画」の概要が説明される一方、日本側からは「北部穀物輸送インフラ」開発における両国協業の可能性に関するJICAの調査結果が発表され、今後具体的なコンセッション案件の選定とその実現に繋げていくことで合意した。

今後の対応

ジルマ・ルセフ大統領の訪日の際に、今回の経済合同委員会での議論を踏まえ、日伯EPAの実現、インフラ案件の推進等に関する経済界の要望を伝えることで合意。2016年中に、東京で次回経済合同委員会を開催することにした。

大前孝雄(日本ブラジル中央協会会長、三井物産特任顧問)

ブラジルのホステス(?)さん



井上章一
(国際日本文化研究センター教授・副所長)

ムラッタの母さん

ブラジルへはじめて行ったのは、1993年の11月であった。そのおり、私はリオデジャネイロの海岸で、おさない娘の手をひく若い母を見かけている。

肌が茶褐色にかがやく、彼地でムラッタとよばれる女性である。目鼻立ちがととのっており、歩く姿もかっこよく、私はすこし魅せられた。同じ道の反対側を同じ方向へ歩きながら、時おり横目でながめてしまった次第である。

といっても、私が彼女にひきつけられたのは、外見のせいだけではない。若い母は、娘を見おろしながら、歌を口ずさんでいた。はじめは、その歌声で二人に関心が向き出しだしたのである。いい女だなといったような助平心から、視線をおくるようになったわけではない。

さらに、彼女の口からは、おどろくべき歌もながれだしていた。

へさくら、さくら、やよいの……

そう、日本人にはおなじみの曲、「桜」を、彼女はうたっていたのである。私でなくても、たいていの日本人なら、興味をそそられるのではなかろうか。

「上をむいて歩こう」なら、リオにもとどいている。サンバ・ショーのハウスでは、日本人客むきの定番曲になっている。しかし、「桜」が当地でしたしまれているというような話は、聞いたことがない。あとでしらべもしたのだが、「桜」じたいはほとんど知られていなかった。

日系人から、おそわったのだろうか。しかし、サンパウロとちがひ、リオに日系人はそれほどいない。

ただ、1980年代後半のバブル期には、日本企業がたくさん進出していた。日本人の商社マンも、この街にはむらがっている。そのころには、彼らを相手にする

ホステスクラブも、できていた。90年代の初頭までは、日本人をもてなすリオのお姐さんも、少なからずいた時期である。

私が海岸で見かけたお母さんも、そんなホステスのひとりだったのだろうか。なじんだ客の日人から、日本の歌、「桜」をおしえられた。彼を愛してしまったお姐さんも、この曲をおぼえてしまう。そんな女性に、私はでくわしていたのかもしれない。

バブル崩壊後、リオにきていたビジネス戦士の多くは、日本へひきあげた。リオにもうけた支店や出張所は、たいていたたまれている。日本人が客となったホステスクラブも、おおむね閉店においこまれた。

おそらく、「桜」をうたう彼女のなじみ客も、リオをはなれたのだろう。だが、愛した男の面影を、彼女は「桜」でしばしば振りかえる。あの人はどうしているのかしら……。

「桜」をうたって聴かされた小さな女の子も、彼とのあいだにできた子だった。そう言えば、娘の顔立ちには、どこかオリエンタルな気配がある。ムラッタの子にしては、肌の色がややあわい。

アンドレアちゃん、ようくお聴き。今から、パパの好きだった曲を、うたってあげるから……。

ほとんど、私の妄想である。おっさんのメルヘンだと、笑いとばしていただければ、それでいい。まあ、海岸で「桜」を口ずさむムラッタの母にでくわしたのは、たしかだが。

日本文化に気づかされ

お母さんへの詮索は、ほどほどにしておこう。彼女が、ホステスであったかどうかとも、このさいおいておく。

ただ、この想像がまがりなりにも成り立つのは、バブルの時期だけである。1980年代後半から90年代初頭

にかけてなら、ブラジルにもホステスはいた。日本人商社マンがつめかけたこのころは、ホステスクラブもできている。だが、それ以外の時期に、男たちをお姐さんらがもてなす接待営業は、ありえない。

じじつ、日本のビジネスマンが街からしりぞいたあとは、こういう営業が消え出した。21世紀には、もうほとんど残っていなかったと思う。けっきょく、ホステスクラブは、日本のおっさんがもたらしたなりわいと言うしかない。ブラジルの男たちは、こういう接待を喜ばなかったのである。

日本通の男たち、ブラジル人たちに、私はよくたずねられた。日本人は、銀座や北新地のホステスクラブを、どうしておもしろいと思えるのか。高い金をはらって、酒をついでもらう。それのなにが楽しいんだ、と。

オフィスではゆるされない助平な会話を、お姐さんたちとかわすことができる。場のいきおいによっては、膝や腿へさわられるチャンスも、なくはない。腿膝三年尻八年という格言(?)も、あの世界にはある。それで、通いつめる男はいるんじゃないかと、とりあえず私はこたえる。

だが、それがブラジルのおっさんたちには、のみこめない。さわるだけだろう。そのあとに、セックスが必ずまっているわけじゃない。あんなの、フラストレーションがたまるだけじゃないか。そう何人もの男に、私はいぶかしがられた。

けっきょく、「おさわり」の味わいが、彼らにはわからないのだと、私は判断する。日本とくらべれば、男たちの性感がストレートでありすぎるのだと、うけとめた。逆に言えば、日本人のそれにはデリケートなところがあるのだ、と。

2004年に、やはりリオで二か月半ほどくらしした時のことであった。私は、日本滞在歴のあるブラジルの男から、痴漢のことを聞いたがされている。

「日本には、電車のなかで女の尻をさわったりする男がいるだろう。痴漢をいさめるポスターをよく見かけたよ。あれが、自分にはわからない。リオの地下鉄じゃあ、あんなことをする男は、まあいないよ。どうして、日本の男は、痴漢行為にはしりやすいんだ」

私に痴漢の体験はない。ただ、さわりたいと思ったことは、はずかしい告白だがある。目の前にかっこい

いお尻があれば、心のなかで手をのばすことも、ないではない。で、あなたたちにそういう想いのよぎることはないのかと、逆に私はたずねている。

くだんの男は、そんな私の質問に、こう答えた。おどろくべき回答であり、私は今でも忘れられずにいる。

「自分にも、地下鉄でいい女を見かけて、胸のさわぐことはよくある。でも、あんなところではセックスにまで、もちこめない。だから、はじめからあきらめる。不思議なのは、お前たち日本人だ。尻をさわるだけ、前戯だけで、どうして満足することができるのか。そんな中途半端なふるまいが、理解しきれない。欲求不満が高まるだけじゃあないか」

これまたストレートと言うしかない応答である。さわるだけ、ふれるだけではとうてい満足しきれない。こういう民族性もあって、ブラジルには電車の痴漢などいないというのである。

さわるだけのホステスクラブを、ブラジルの男たちは、つまらないという。さわることでよろこびを感じる日本の痴漢が、信じられないと言った男もいた。ひょっとしたら、そこには隠微な日本文化が横たわっているのかもしれない。

「おさわり」という言葉のことも、あらためて考えなおす価値はある。この言葉は、接触をしめす名詞に、「お」という接頭語をそえている。接触＝「さわり」をたてまつり、ことほぐつくりになっているのである。

日本人同志の挨拶に、ブラジル人のようなハグはない。握手さえためらう傾向がある。身体ふれあいを厭うこの習慣は、「おさわり」に価値を見出す文化と通じ合う。われわれは、「おさわり」の値打ちをたもつために、身体接触をさせているのではないか。電車の痴漢とホステスクラブは、どちらも日本文化のたまものであり、たがいに通底する。私は、ブラジルの男たちから、そうおしえられた。

(編集部注:『つくられた桂離宮神話』(1986年、サントリー学芸賞)、『美人論』(1991年)、『美人研究－女にとって容貌とは何か』(1991年)、『南蛮幻想』(1999年、芸術選奨文部大臣賞)、『伊勢神宮』(2009年)などの著作によって建築史や風俗論の研究者として知られる井上教授は、リオデジャネイロ州立大学での集中講義(2004年)を含め計5回ブラジルを訪問している。ユニークなブラジル論『ハゲとビキニとサンバの国』(新潮新書)の著者らしい(?)、日本ブラジル比較身体文化論を寄稿していただいた。)

美容サロンが女性も男性も急拡大

化粧品消費の世界ランク上位に

ブラジルの女性は美に関してお金を惜しまないといわれている。そのことを客観的に表しているのは、世界の化粧品市場におけるブラジルのランキングであろう。

例えば、化粧品市場における消費世界ランクトップ3の国はアメリカ、日本、ブラジルである。また、2013年に成長したトップ3はアメリカ、ブラジル、中国となっており、2025年のトップ5にもブラジルが入ると予想されているように、どのデータをみてもブラジルが上位に入っているのである。

また、美容室の数においても、年々増えており、現在35万軒といわれている。この数字は、世界3位にあたるのだが、実際、そこかしこに美容室があるような印象を受ける。また、美容室の雇用創出は、スタイリストや受付もあわせて170万人であるといわれている。このようにデータから見てもブラジルは美の大国といえるだろう。

今回は、そのようなブラジルの美に関して、特に美容室に関連する内容を紹介する。

トータルビューティーが当たり前

さて、ブラジルにおける美容室の特徴のひとつに、トータルビューティー化が進んでいるということがあげられる。日本でも、フェイシャルエステやネイルなどを取り入れている美容室が増えてきているが、ブラジルでは、以前から都市部の多くの美容室でエステやネイルのサービスを併設している。ポルトガル語で美容室は、「Salão de Beleza」と呼ばれているように「美のサロン」であって「ヘアサロン」ではないのであるから、トータルビューティー化が進んでいるというよりも、それが当たり前と言った方が

いいのかもしれない。美容室に来る人は、髪を切ったり、アレンジをするだけでなく、眉を整えたり、肌のクレンジング



栗島 裕
(南米タカラベルモント)

やトリートメント、ネイルやペディキュア(足の爪にカラーをいれる)のサービスを受ける。ほとんどの美容室は、そのような人で金曜日や週末はいっぱいになっており、さらに一部の高級サロンでは、平日もいっぱいになっている。毎週のように美容室に通ってサービスを受けている人が多いようである。

外食よりも美に消費する女性たち

いくら平均的な美容室で受けるカットやエステ、ネイルの価格が日本と比べて安いとはいえ、毎週のように通う人がいるということを知って、驚く方もいるかもしれないが、ブラジルの女性は、例え不況になっても、外食費などは節約しても美に関する費用は、そう簡単には節約しないのである。とにかくブラジルの女性は美に関してお金をよく使う。

また、最近の美容室のトレンドとしては、内装に関していえば、高級サロンにおいては、どちらかと言えば落ち着いた雰囲気やゆったりとしたくつろぎの時間を楽しめるようなサロンが増えてきており、サロン全体の色、家具、調度品に関して落ち着いた、またシンプルな色、デザインが好まれている。

メンズサロンも急拡大、おもてなしも

さらに、世界的にみてもダンディなメンズサロンが増えてきているが、ブラジルにおいてもサンパウロやリオデジャネイロなどの都市部で、ダンディなメンズサロンが急激に増えてきている。場所によってはカスタムバイクのショップ、タトゥサロン、バーなどと併設された「大人の男の社交場」という機能を持ったメンズサロンが多く出現している。

また、サンパウロでは、日系人のサロンオーナー、スタイリストが多く存在する。そういったサロンにおいて「おもてなし」を追求しようとする、また、日本以上に日本の良さにこだわるサロンもある。例えば日本発祥のヘッドスパを取り入れるなど日本人が快適にサービスを受けることが出来る美容室が存在しているので、ぜひご利用を。

ブラジルは風味も香りも多種多様



檜村覚人
(高砂香料ブラジル)

ガラナの嗜好性にも地域差

日本ですら地域によって風味の嗜好性が異なることから、20倍以上の国土を有するブラジルのそれが大きく異なることは必然と言えよう。具体例として、まずはブラジル人が大好きな炭酸飲料について触れたい。中でも圧倒的な人気を誇るのがコーラで、炭酸飲料市場全体の約50%を占めている。しかし、嗜好性について語る上でより興味深いのは2番人気(炭酸市場の15%前後を占めると見られる)のガラナ飲料である。「ガラナアンタルチカ」(フローラル・ベリー要素が特徴)のシェアはガラナ飲料カテゴリーの中で圧倒的だが、それぞれの地域に特有のブランドがあり、風味も大きく異なる。「ガラナジズス」「ガラナバレー」を代表例とする。前者はクミン・クローブ・シナモンのスパイス感が強く、マラニョン州等の北東部で一般的。後者はTutti-frutti・スイートバニラ要素が特徴的、アマゾナス州等の北西部にて人気である。「アンタルチカ」が関東風のうどん出汁だとしたら「ジズス」「バレー」はスンドゥブチゲ、くらいの風味差である。

粉末飲料はアマゾンフレーバーも人気

風味の話題から外れるが、粉末飲料の需要も多い。飲料市場全体で、首位の炭酸飲料は約40%を占め、次点に位置する粉末飲料は10%前後を占めている。炭酸飲料が500mlあたり大体1.5～3レアルであるのに対し、粉末飲料はスーパーで袋あたり約1レアル(=約40円)、水で薄めると1Lのジュースが愉しめる。味も一般的なフルーツは勿論、アマゾンフルーツの「グラピオーラ」「クブアス」といった独特なアイテムまで存在し幅広い。2015年現在、景気低迷により飲料市場も低迷気味だが、その中で、粉末飲料は安定している。RTD飲料消費者が安価な粉末飲料へ移行していることが



スーパーでずらりと並ぶ粉末飲料

が考えられる。「打線は水物、野球は投手」というが、ブラジル飲料市場の4番バッターは炭酸飲料で、不況に強い粉末飲料は多彩な変化球と安定感を売りとする投手なのである。

話を嗜好性に戻し、飲料以外における地域差の大まかな例を挙げたい。例えば鶏肉。北部では脂感が受け入れられ易く、南部では受け入れられ難い。肉へのアクセントは、北部ではコリアンダー、南部ではバジル等が用いられる。また、北部ではカプサイシンの辛さが受け入れられ易く、南部では逆、といった傾向もある。海の幸をトマトで煮込んだ料理「ムケツカ」においても、デンド油・ココナツミルク・コリアンダー等のパーツそれぞれを使ったり・使わなかったり・少量用いたり、と地域によって組み合わせがだいぶ異なるようだ。

最大公約数の風味はなし？

広大な国土を有するブラジル。このような嗜好性の違い、食材の組み合わせが幾重にも広がりを見せており、上記はほんの一例に過ぎない。食品メーカー各社は、商品を地域に合わせた風味にするか、あるいは、各地の嗜好を加味して最大公約数的な風味にするかなど、苦勞されているのではないかと想像できる。

メーカー各社は、ブラジル人の食に対する保守性にも頭を悩ませているのではないかと。近年のスマートフォンの普及等の事例から、新しいものの好きな一面を見せるブラジル人も、食に関する捉え方は逆のようだ。高所得層は箸を上手に使いこなし日本食を愛する等、外の食文化を受け入れ易い傾向にある。しかし、消費の多くを支えている中～低所得層は、大家族で固まって同居し、お米・煮豆を一度にたくさん作って毎日食べる。外でもコーラかガラナ、あるいはビールを飲むことが基本習慣である。経済的な事情で選択肢が少ないことに一部起因していると考えられ、今後、人々がより豊かになった場合、新しい商品や風味への許容も広がりを見せていくのではないかと。

美しさを磨く香水分野も開拓

弊社(高砂香料ブラジル)は、アジアNo.1香料メーカーの南米拠点として製品に日本の技術を反映させると同時に、現地の嗜好に合わせるべくブラジル人調香師が食品香料の開発を行っている。また、香水をはじめとする化粧品分野ではフランス人・ブラジル人のパフューマーが開発を担当。中南米に於ける巨大市場であるブラジルの「フレーバー」と「フレグランス」双方に大きな期待をかけている。



日伯外交関係樹立120周年・記念出版 『ブラジル日系人経営者・50人の素顔』 の発刊目的とその背景 (後編)

サンパウロ新聞社&カンノエージェンシー共同制作

菅野英明
(カンノエー
ジェンシー代表)



ブラジル社会

筆者が初めてブラジルの赤土を踏んだ30年前は、オブリガードとともにブラジルの代名詞ともいえる「アミーゴ」(友達)という言葉がどこに行っても使われていた。移民によって成り立っているブラジルは、サンパウロだけで世界82カ国の言葉が毎日使われており世界でも代表的な『多文化共生国家』で、それ故にというべきか移民に対して最も寛容な国ともいわれる。同時にそれは相互扶助的な助け合いでもあるアミーゴ文化と密接に連動する社会システムであり、アミーゴが優先する文化を意味している。一方、せっかくブラジルまで来て3年程度の勤務期間が多い日本人駐在員は、ブラジル人ビジネスマンからは「日本人は商売上のアミーゴにはなれても人間同士のアミーゴにはなれない」という言葉が、レアルプラン以降、数多く発せられている。日本の会社制度の問題とはいえもったいない話だ。しかし日系人経営者は本人のお墓はブラジルであり家族とともにする生涯の故郷でもあり、ブラジルの経営風土に日本のよき伝統的な精神文化を加えている日系人経営者は、ブラジル発展のためにますます大きな期待と役割が待っているような気がする。

ブラジル人経営者

世界の経営者像でいえば、ブラジルの経営者の強さは『失われた80年代』を勝ち残って鍛え抜いた、性根の座った怯まない開拓者精神といわれる。親ブラジル派なら知っているが、1980年代から1994年までの間に、ハイパーインフレ(この時代は1日に1度、2度の値上げ実施も日常化)、1000分の1のデノミを3回(毎年紙幣が変わる)、債務不履行、預金封鎖(運転資金がゼロ)などを経験し、経営者の受難時代と言われたこの経済動乱期を果敢に乗り越えてきた。当然、胆力と体力、先見性と決断力、不動心と情熱、変化対応力、危機管理能力など、自らを磨き上げた逞しい経営者が多い。もちろん多くの日系人経営者もこうした同じ土俵で歴史を積み重ねて勝ち残ってきた。日系コロンビア企業は社歴が30年以上、50年以上の会社が増えており、こうした会社は

企業理念もしっかりと構築されており、経営も2世から3世の時代に入ってきている。

今後の日伯関係

これからの日伯関係のためになにが必要か、経営者の取材を通して分かったことは、日系人経営者の大多数が両親、祖父母、本人が生まれ育った祖国日本を愛しており、日本の行く末を自分の事のように心配していることだった。同時に若い日系人世代に対する日本政府の本腰を入れた対応も切望されている。多くの日系3世や4世は日本語が話せなくても日本への関心は深い。そのためにも例えば政府支援の日本語学校の開校が望まれる。隣国の中国や韓国は政府が全面支援して早々と母国語学校をサンパウロに設立し、移民子弟の教育に力を入れ母国との絆を強めている。しかし残念ながら日本政府のブラジルに対する日本文化の発信は日系コロンビア社会に頼っているところが大きく、政府主導で中長期的な日本の国益を考えた日系人後継世代に何を残せるか、世界最大の日系人が住むブラジルで、100年の大計を睨んだ骨太の日系社会への政策としての取組みがいま求められているような気がする。

本書は、日系人の現役と後継世代、そして日本の方々に、ブラジル人の方々に、ブラジル日系人の107年の移民史にいままで抜けていた『ブラジルの日系人経営者』を、こうした理由で是非読んでいただきたいと願っている。同時に本書発行を通して107年を迎えた日系人移民史の歴史の1頁に新たに加わることも目的にしており、このような意図と目的で本書は発刊された。本書発刊に際しては、サンパウロ新聞の鈴木雅夫社長をはじめ、取材に協力していただいた経営者、情報提供していただいた日伯関係者からのサポートなど、本書発行に尽力していただいた関係者の皆様に、また本稿の場を提供していただいた「ブラジルト報」関係者に、本誌面を借りて御礼を申し上げます。

最後に、ブラジルに移住した日系人を温かく迎え入れ、ここまで育ててくれたブラジルとブラジル国民の寛大な心と精神に改めて感謝の念を捧げたい。

日伯EPA実現に向けたロードマップ案(5ページ参照) 経済合同委で発表された 「経団連・CNI共同報告書」

日伯両国間の経済関係の強化を図ると共に、貿易投資フローの自由化のための法的基盤を提供することを目的に、ブラジル全国工業連盟(CNI)と日本経団連は、日伯両国間の包括的な経済連携協定(EPA)の実現に向け交渉を開始するよう提案し、その枠づくりに取組むことに合意した。共同報告書はルセフ大統領訪日に合わせ、両国政府に伝えられる。全5章で構成されるが、主に第3章の「包括的な日伯EPAの実現に向けたロードマップ案」と第4章の「具体的な二国間イニシアティブ」について紹介する。

〈日伯EPA(第3章)〉

両国間の経済関係の強化を図ると共に、貿易と投資の自由化のための法的基盤を提供するため、日伯EPAは包括的で、かつ以下の問題に対処するものでなければならない。

◆物品貿易

野心的かつ包括的なEPAを実現するため、協定発効後10年以内に貿易量/額ベースで90%以上の関税を撤廃すべきである。いかなる製品も自由化スケジュールからアприオリに除外すべきではなく、EPAは輸入割当の完全撤廃を目指すものでなければならない。

交渉の過程においては、両国とも、最もセンシティブな品目の扱い方について、いくつかのオプションを検討すべきである。センシティブ品目のリストは、一つのセクターに集中しないように作成する必要がある。日本は、自動車、自動車部品、鉄鋼、機械、電子機器、化学製品、建設資材・機器の関税撤廃に関心を示している。他方、ブラジルにとって日本における貿易自由化が最も望まれる分野としては、牛肉・内蔵、トウモロコシ、一部の果実類、砂糖およびエタノール、大豆油、皮革、履物、加工食品、木材、繊維製品などが挙げられる。

◆貿易の円滑化および税関手続

両国間の貿易の円滑化を図ると共に、EPAが意図する貿易特恵の恩恵を両国の企業がフルに活用できるように、日伯両国は、世界貿易機関(WTO)パリ閣僚会議において合意された「貿易円滑化協定」(TFA)の実施に取り組むべきである。

◆規制問題: 衛生植物検疫措置および貿易の技術的障壁

EPAには、WTOの「SPS協定」以上の野心的なSPS(衛生植物検疫)条項を設けるべきである。また、SPS措置は科学および国際規格に基づくものでなければならないという要件に十分対応するものでなければならない。この目的を達成するため、EPAでは、「SPS協力に関する小委員会」を設置するものとする。当該小委員会は、両国の専門家によって構成される。

◆知的所有権

知的所有権の保護は、投資とイノベーションを促進する上で不可欠である。両国は、WTOの「知的所有権の貿易に関連する側面に関する協定」(TRIPS)の規定を遵守し、知的所有権に対し無差別の保護を与えるものとする。

◆天然資源とエネルギー

原料やエネルギーへのアクセスは不可欠である。両国間貿易におい

ては、輸出規制措置や輸出関税は避けるべきである。制限(現地調達率要件、外国資本の上限など)を、適宜、撤廃または軽減し、天然資源やエネルギー開発に関連する共同プロジェクトや技術移転を促進すべきである。

〈二国間の具体的なイニシアティブ(第4章)〉

EPAは、その対象範囲や規定が包括的かつ詳細でなければならない。だが、両国間の経済関係の発展の妨げとなる障害がいくつか存在しており、これらについては、EPAに付帯する個別の協定の交渉を通じて克服できると考えられる。これらの協定の中には、EPAに関する交渉が妥結した暁には、EPAに組み入れることができるものもある。これらの協定の対象範囲および一般的内容として、下記を提案する。

◆二国間租税条約(BTT)

ブラジルと日本は1967年3月にBTTを締結し、1976年3月の議定書によって修正された。同条約は、二重課税の回避と課税制度の予測可能性の保証を目的としたものである。それ以後、日本からブラジルへの投資が大幅に拡大されるとともに、投資の新たな様式が考案され、ブラジルの課税制度に変更が導入された。

この取り組みによって恩恵を受けるのは外国投資家だけではない。例えば、SISCOSEVの統計によると、2014年に、ブラジルは、8億7,100万米ドルのサービスを日本から輸入した。これらのサービスの多くは、ブラジルの産業界によって消費されている。ブラジル・日本間のBTTについては、再検討を行って規定を改定するとともに、条項の解釈に関連して不確かさを排除する必要がある。

◆査証の相互免除に関する協定

ブラジルと日本は、短期滞在査証の相互免除に関する協定の締結のための交渉を始めるべきである。2014年12月現在、日本は、67の国と地域との間で査証相互免除協定を結んでいる。また、2015年6月現在、83の法域のパスポート所有者が、最大90日間の観光または商用目的でブラジルに入国する場合(特に指定がない場合)、査証を取得する必要がない。

また、2011年に「商用目的の数次入国査証の発給の円滑化に関する覚書」が締結されて以来の成果も、恒久的かつ透明性のある手続きを通して、新協定とともに一括して確立すべきである。

◆学位、証明書、その他の職業資格証明の相互承認

学位、証明書、その他の職業資格証明の相互承認によって、両国間の経済関係を強化できる可能性が高い。ブラジルと日本は、1961年に、日伯文化協定を締結しているが、当該協定は、学位や資格証明書の相互承認の円滑化・簡素化を進めるため、規格・基準の審査を目指すものである。

◆結論および勧告

過去15年間の両国間における貿易および投資のフローは堅調だったと言えるが、ブラジルと日本の間のさらなる経済協力を推し進めることができる余地が多分に残されている。

ブラジルに日本の心を伝えたい！

マルシオ・ゴメス
(TV グローボ・アジア支局長)



©GLOBO

ジャーナリストの仕事に就いてから 20 年以上になるが、外国特派員になったのは今回が初めてだ。ブラジル最大のテレビ局「グローボ」の特派員として日本とアジアのニュースを伝えるため、2013 年 6 月に来日し、今月で 2 年 6 ヶ月となる。

外国特派員としてのキャリアのスタートは遅かったと思うが、リオデジャネイロという世界でも類を見ないほど活気に溢れ、多様な人々と文化を持った都市の取材に長年携わってきたおかげで、特派員に求められるノウハウをある程度身につけていた。というのも、リオでは「RJTV」というリオのニュース情報番組のアンカーを務めていたからだ。

それに加えて、好奇心というジャーナリストに必要な不可欠な資質を持つ自分にとって、文化や風土、習慣の違いは、特殊なものというよりも、むしろ魅力と感ずることができ、この感覚は人間や生活行動、食べ物などについても同様だ。

こうした資質が自分にとって未知の国「日本」への適応に役立ったことは間違いなく、日本の日常に浸り、日本人や日本の習慣、伝統について考えることは、とても良い経験となっている。また、そのおかげで、私自身も成長させてもらったと感謝している。

例えば、新幹線の清掃チームへの取材では、日本人の規律、献身、正確性への要求の厳しさについてつぶさに学んだ。小学校を取材した際には、日常的に子供たちが自ら給食の配膳を行い、教室の床を雑巾がけする姿はブラジルでは考えられない光景だった。集団生活について子供達が学ぶ様子を目の当たりにし、感動した。また、広島取材での被爆者へのインタビューは、人生観が変わるような体験であった。

レポーターは単に「ニュースの語り手」であるだけではなく、ニュースを受け取る側に変化を起こすための道具でもある。そのために手本とすべき例を提示し、過ちを告発し、考慮すべき道や選択肢を示す。

それはブラジルのようなまだ国づくりを進めている段階の国にとって非常に重要な意味を持つ。遠く離れた場所にいながら、仕事を通してこの一大事業に携わることができ誇らしく思っている。

(編集部からインタビュー)

1- 日本で特別好きな場所がありますか？

日本中を取材していく中で広島がもつ歴史や、現在に至るまでの復興の道のりに関心を抱きました。長野の地獄谷温泉の雪山で生活する猿には心がとても癒されました。京都では綺麗でまるで夢のような街並みを見ることができました。しかし、最近、訪れた青森県の八戸市は、町や漁師文化に魅了された上、地元の方がとても親切で素晴らしい体験になりました。

2- 日本で生活する中で好感が持てる習慣はありますか？

日本で生活する外国人からみたら、あらゆる場面で日本国民の真面目さ、段取りの良さが凄く目につきます。私達、ブラジル人には” 過剰ではないか” と疑問に抱く場面も多々あると感ずることもあった。しかしその国民性があるからこそ日本が高い水準で発展していった重要な要素ではないかと思えます。

3- 日本の食べ物の中で気に入っている料理はありますか？逆に 2 度と食べたくない物は？

ブラジルで良く食べたフェイジョン、牛ステーキとポテトフライはとても恋しいです。でも日本食も好き。中でも神戸牛や寿司は好きです。また、広島で食べたお好み焼きが絶品で、ほっぺたがおちそうだった。

4- 日本での特派員、一番難しいことは何でしょうか？

ブラジルのテレビ局で働いている身として、一番の難関は時差。日本とブラジルは 12 時間の時差があるため、日本の夜中に番組出演することも多く、年中、睡眠不足です。言葉の壁も難しい問題の一つです。自分自身は日本語を話せないこともあり、また英語が話せる方も限られているため、コミュニケーションがうまくいかないことがある。しかし、みなさんの親切さ、一緒に働いているスタッフの努力のおかげで、さほど大きな問題ではないと思う。

(編集部注)

出演するニュース番組 (日本時間)
Hora 1 : 1 時 ~ 2 時ごろ放送
Bom Dia Brasil : 6 時 45 分 ~ 7 時 45 分ごろ放送
Jornal da Globo : 16 時 30 分 ~ 17 時ごろ放送
Jornal Nacional : 20 時 30 分 ~ 放送

日本で TVGLOBO を見る方法 : スカパープレミアムチャンネル 5 1 4 ch 「TV グローボ・インターナショナル」
視聴申込み 03 - 6436 - 9200 (株式会社アイピーシー・ワールド・ドカスターセンター)

JTBグループが日伯無限の可能性へ出陣！

市川 恒
(JTB コーポレートセールス・
チーフマネージャー)



JTB と言うと、昔から旅行会社のイメージが強いが、弊社 (JTB コーポレートセールス) がブラジルで行っている事業の多くは日本企業の進出サポートのためのものである。その内容を紹介したい。

BRABIC ブラジルビジネス情報センター

ブラジル進出を希望する日本企業や自治体に対して最新情報の提供、各種セミナー実施、現地視察アレンジ、各種調査、会社設立からマーケティングの戦略策定までのサポートを行う BRABIC ブラジルビジネス情報センターを 2010 年 12 月に株式会社クオンタムと共同で設立した。

経済産業省のクールジャパン事業、農林水産省の日本食・食文化普及事業、県産品 PR 事業及び販路開拓・事業展開支援事業等を受託し、日本とブラジル双方からのサポート体制を強化するため、2012 年にサンパウロのパウリスタ地区にオフィスを開設した。

初めてのブラジル訪問でも効率良く市場調査したい要望が多く、こうした企業のために安全・安心な共同オフィスを提供しここを拠点として現地市場調査や現地レポートが作成できるように日本語スタッフのサポート体制を整えた。

ブラジル進出の最適化を支援

輸出企業がブラジルで成功する条件は、計画段階での現地輸入原価の算出がカギを握る。推定輸入コストと実際の最終コストには大きな開きがありブラジル市場参入の課題だった。

InterCOSM は商材の基本データを入力することでコストが算出できる画期的なソフトで、次世代を担う ORACLE プラットフォームを基盤として生まれた。クラウドベースで低コストが特徴だ。あらゆる通貨に対応でき、輸出拠点や空輸・



製品紹介ビデオ (日本語) :
https://www.youtube.com/watch?v=l2DCBwm_p9k

海上輸送の選択が可能でアナリストが 1 万 4 千点にもおよぶ NCM コードの中から認定コードを選択する。

常に変化するブラジルの輸入規制、不定期に変動する税率や為替市場にリアルタイムで対応可能だ。出荷輸送を可視化する輸送最先端の 3D パッケージシミュレーションにより出荷梱包、コンテナ数を実際に出荷を行わなくても正しいデータを取得できる。(弊社は InterCOSM の日本地区総代理店)

現地生活サポートサービス

ブラジルの現地生活を快適にスタートさせる「2 週間生活立ち上げサポートマンツーマン対応型」と滞在期間を通じて安全安心快適な生活を実現するための「しっかり生活サポート現地デスク対応型」があり、駐在員とその家族の生活を支援している。現地の危険情報を 24 時間本人へ直接メール配信する新サービス Alert STAR も開始した。

JTB グループ (ブラジル) での拠点整備

ブラジル及び南米企業を対象にした BTM(ビジネストラベルマネジメント) やレジャーといった各事業の拡大、旅行周辺ビジネスの事業領域拡大をめざした「Alatur JTB」を 2013 年 10 月に設立した。リオ 2016 オリンピック・パラリンピック 44 競技のテストイベント (プレ大会) の一括受注には、日本流のおもてなしが期待されている。

また昨年には、日系企業、在住日本人並びに日系人向けに特化している Quickly Travel が JTB グループに仲間入りし、ブラジル日系企業の成長と発展に寄与する体制を整えた。日伯外交関係樹立 120 周年事業やフェスティバル・ド・ジャボンの日本ブースで日本食普及促進事業のサポートも行った。

2016 リオと 2020 東京とのブリッジ

2014 年ブラジル人訪日数 32,310 人、日本人訪伯数 84,636 人と日伯の人口、相互貿易、経済規模から見ると交流人口はまだまだ少ない。双方ウィン・ウィンの関係構築の一翼を担うために、経済や文化交流機会を創造するだけでなく、ブラジル人への日本のおもてなし精神の導入や日本人へのブラジル式のアミーゴ交流を導入する。ひいき客を育成する最強のメソッドを相互提供することによって日伯サービス産業の一層の発展に貢献していきたい。

日伯経済協力と ビジネスの課題

先月号では8月17日から20日にかけてサンパウロ大学で開催された『日本ブラジル国際シンポジウム』につき紹介したが、私が講演した「日本ブラジル二国間の司法共助」の他、「裁判外紛争解決手続き」、「競争法」、「民法および消費者法」、「M&A」、「コーポレートガバナンスおよびCSR」、合計6つのセッションにて興味深い発表と意見交換がなされ、シンポジウムは成功内に終了した。前夜祭（開会式・夕食会）は法曹界・学界・ビジネス界より約200名が参加、交流の場としても意義があったと感じている。

さて、昨今ブラジルの不況が話題となっているが、日伯両国の経済関係は官民大型プロジェクト（製鉄・紙パルプ・アルミ製錬・農業等）だけでなく、食品・サービス等、消費者に身近な分野でも進展してきた。信頼醸成に基づく更なる関係深化を期待し、ブラジルでのビジネスの課題について考察したい。

不明瞭、複雑な法制度と異議申立ての頻繁さ

ブラジルは、人口2億人に対して訴訟件数1億件/年と言われる訴訟社会であり、事業活動に伴う訴訟件数も多い。法令は作成前の立法調査が甘いため明瞭性に欠け、そのため法的安定性と合理性に欠ける場合がある。また、稀に外国人投資家に不利な法令もある。

労働法では、労働者保護の色彩が極めて濃く権利主張と補償のための異議申立ての精神が根付いているとさえ言える。租税法では、納税者が複雑な法令と難解な運用に疑義を抱き適用回避のために「異議訴訟」を行う事例が目立ち、全訴訟の3分の1を占めるほどである。また、一般的に訴訟は解決までに時間が掛るため、効果的、効率的な対策を講じる必要がある。

更にブラジルは、国土の広さ、人口や企業数の多さに比較して法令遵守を監督すべき政府機関が少ないために人材と活動資金が不足している場合がある。一般的にブラジル企業に於いて税務職員による監査は散発的であり、時効期間を含む全ての年度が監査対象となることは極めて例外的と言える。こうした制度面におけるコントロールの限界は、企業が法令遵守から逸脱することを促進してしまっていると言えよう。

企業活動における留意点



松田純一
(弁護士。松田総合
法律事務所所長)

連載

ビジネス
法務の肝

企業が事業活動を行う場合、グループ内企業間における「連帯責任」の概念について特に留意する必要がある。2013年成立の「腐敗防止法」では、違反行為を行った企業の親会社は違反企業と連帯して制裁金支払と賠償責任を負い、且つ親会社の責任はその行為について故意・過失が無くとも損害賠償の責任を負う「無過失責任」と理解されている。

また、労働法の分野では、「同一経済グループ」に所属する企業間において、雇用者としての労働債務に関して「連帯責任」を負うため、グループ内企業の元従業員が労務訴訟を提起し、これに他のグループ内企業が巻き込まれるといった事例もあるが、グループ企業全体が被告になることは経済実態を正しく考慮しているとは言えず、そもそも同一経済グループの定義も明確ではないと理解されている。

商取引・投資におけるデューディリジェンスの重要性

ブラジルは税制や法律の難しさから新規参入には難しい市場に見えるが、本年9月サンパウロで開かれた「日伯経済セミナー」では、ブラジル政府高官が「税制など信頼できるビジネス環境の提供」につき発言した。所謂「ブラジル・コスト」への懸念はあるものの、両国連携の更なる高まりは、「日本ブラジル経済連携協定（EPA）に関する共同研究報告書」が両国経済団体により提言されたことよりも明らかと言える。

日本の企業・投資家がビジネスを進めるためには、信頼できる専門家の協力を得てリスクレベルを評価することが望ましい。対象とする企業または商取引の「全ての重要な側面」について「デューディリジェンス」を行い不当性や違反行為有無の発見に努め、その過程において表面化していない潜在的リスクの評価も併せて行いたい。また、デューディリジェンスを通じて対象企業や取引の全般的な信頼性が明らかになる場合もある。ブラジルでの成功例を積み上げるためには契約や投資決定前の客観的かつ専門的な評価が欠かせない。

なお、本文執筆には、アルベルト・モリ氏（弁護士、パートナー。Trench, Rossi and Watanabe Law Firm）、板橋健氏（ブラジル三井物産株式会社 法務・総務部長）の前述シンポジウムに於けるM&A講演を参考とし、直接的ではないものの一部内容を引用させて頂いた。記して御礼を申し上げる。

《事例紹介》 コマツの通関コスト 削減方法

過去3回の連載において、輸入に関する間接税制度が極めて複雑であることから生じる「ブラジルコスト」と呼ばれる高コスト構造を始めとした、ブラジル進出企業が遭遇するビジネス障壁の紹介とその対策としての特別関税制度の活用、南米南部共同市場（メルコスール）での優位なビジネスチャンスを紹介してきた。今回は、特別関税制度を活用した削減事例を紹介する。

コマツブラジルの状況

コマツブラジルは、コマツグループの初の海外現地生産拠点として1975年にスザノ市（サンパウロ州）に設立された。以降ブラジル市場で確固たる地位を確立し、長年同国の建設・開発の歴史において大きな役割を果たし、道路、鉄道、空港、発電所、石油化学コンビナートのほか、大規模なインフラ、農業・鉱業プロジェクトなどの重要事業に参画している。

国内外の幅広い顧客と取引を行う上で、RECOF制度（工業関連特別関税制度）に基づく承認を取得し、ブラジル連邦歳入庁が定める基準を遵守する必要があった。RECOF制度の規則が定める要件、特に、同制度の対象製品に関する説明責任の遵守に加えて、細やかな管理とコスト削減を目的とした輸出入プロセスの最適化も図る必要があった。

RECOF 制度活用への課題

RECOF制度で求められるすべての管理事項を実施し、必要な情報をブラジル連邦歳入庁に報告、承認取得する上で、同社の社内ERP（統合型業務パッケージ）システムとブラジル連邦歳入庁のシステム双方とのデータ連動が不可欠であり、マニュアル対応での運用は困難だった。

システムによる自動化を模索した結果、コマツは外部の



エドアルド・
ヴィトール
(トムソン・ロイター
GTMサービスグローバル
ヘッド)



フェルナンド・
マグリ
(トムソン・ロイター
GTMサービスアライア
ンスマネージャー)

ソフトウェアを導入する事で、社内ERPシステムとブラジル連邦歳入庁とのデータの読み取りの自動化に成功し、RECOF制度の承認取得を行うことになった。

システム化のさらなる利点

承認取得の目的で導入したソフトウェアだが、業務プロセスの改善とコスト削減の効果をもたらす活用ができる事が見えてきた。具体的には、輸入管理システムとERPシステム、社内ウェブベースツールとの完全統合が可能になる事で、輸入管理システムと連動するKDBウェブサイトインボイスをアップロードすることが可能となる。最小限の手入力での輸入プロセス全体が自動化され、輸入申告書、国内用インボイス、連邦徴税票などの帳票をすべて作成することができる。

さらに、輸出管理ツールも社内ERPシステムと完全連動する事で、受注書と国内用インボイスが発行されると、その情報が輸出管理システムに送信され、輸出登録書、輸出申告書、その他通関に必要な帳票が作成できる。

システム統合の結果、輸入リードタイムは約30%短縮され、通関業者関連コストを約90%削減された。加えて業務の信頼性も向上される事となった。

これまでの連載で、ブラジル進出企業が遭遇するビジネス障壁の紹介とその対策としての特別関税制度の活用を紹介してきた。しかしながら、制度の活用においては、システム化の視点を併せ持つ事を推奨する。関税削減に加えた更なるメリットが結果としてもたらされるからだ。

(注) RECOF制度（2004年4月20日付け財務局規則417号）情報通信関連、航空機産業、自動車産業、半導体産業関連分野に対する輸出製品生産に関する特別措置。RECOFの要件を満たした場合、部品・原材料等の輸入に際し支払われるべき輸入税（II）、工業製品税（IPI）、社会負担金（PIS/Cofins）の支払いが留保される。国産品の購入の場合にはIPI、PIS/Cofinsの支払いが留保される。輸入、購入された部品・原材料が製品に組み込まれて輸出されると、留保されていた税金が免除される。

ブラジルに生まれて良かった

私が生まれ育ったのは、ブラジルのサンパウロの街中ですが、両親は日本人です。私の妹も従姉妹たちも、Av.PaulistaのMaternidade Promatre産院で生まれました。そこには、日系人をとりあげてくださる助産婦さんがいたからです。

父はサンパウロのクラブを経営する傍ら、日本にも多くのアーティストを演奏に連れて行くマネージャー業をしていました。シンガーのクラウジアさんに父が同行し、浜口庫之助さんが作曲し演奏したボサノヴァは、日本の大手自動車メーカーのCMにも使用されました。その他にも、ギタリストのバーデンパウエルさんを日本に招いたり、日本からブラジルにダークダックスさん、渡辺貞夫さん、ロスインディオスさん、菅原洋一さん等、数々のアーティストを招いた事もありました。音楽好きな父はブラジルの音楽、特にサンパウロの音楽が大好きでした。

未知の土地での暮らしは苦労も絶えなく、とても大変だったと思うけれど、どんな時も前向きで諦めることがなかった父でした。そして母は色々な事があったけれども、楽しかったわ〜、若かったのよ〜、と、穏やかに話します。近所には色々な国の人がいて、週末には母とお酒を飲みながら、餃子を作る日本人のおじさんや、我が家のお漬物を頼りにやってくるおばさんもいました。そんな、オープンなブラジルでの生活スタイルは、音楽同様に、私の大きな宝となりました。

その後私達一家は帰国し、父は日本でブラジル音楽のお店を開きました。私はブラジルが懐かしく、音楽の道を歩み始めました。ポルトガル語で歌う事にこだわりを持ち、アルバム制作をしていますが、コンサートを重ねていくうちに、『世界の音楽の旅』と題して各国の歌を現地の言葉で歌う事を始めました。

ここ15年程、私はアジアの国々でコンサートを頻繁に行っているのですが、一番最初に訪れた父の生まれ故郷の台湾で、中国語の曲『何日君再来』を歌うことになったのがきっかけでした。アンコールで恐る恐る歌い始めた時、大歓声を耳にした瞬間、喜びと感動で胸がいっぱいになりました。大合唱にて迎えたフィナーレ。終演後、楽屋で待っていた両親の嬉しそうな表情を見て、涙が溢れました。以

小野リサ
(ボサノヴァ歌手)



来、中国、シンガポール、インドネシア、タイ王国、香港、韓国、パリ、ローマ等、コンサートでは現地の歌を現地の言葉で歌うようにしています。

ポルトガル語で歌うこと、それは私のアイデンティティの一つですが、原語で歌う事により、言葉の大切さ、意味の深さをよりいっそう伝える事が出来るのだと実感しています。

音楽の旅と題してブラジル音楽から離れ、各国の音楽をテーマにしていくうちに、気づいたことがありました。それは、知らず知らずのうちに、ブラジル音楽のルーツを探す旅となっていることです。北東部にはアメリカの音楽が根付いていて、for allがForroになり、使うリズムもブルグラスの形態の姿で演奏されます。バイオリン、アコーディオン、ザブンバ、アラブ音楽を探ると弦楽器の国アラブ音楽にウードのような弦の響きが美しい楽器が使われます。

そういえばブラジルの多彩なギター奏者は、アラブ系ブラジル人が多いです。エグベルトジスモンチ、アサード兄弟、バーデンパウエル。ハワイのウクレレは、カバキーニョになり、アフリカのリズムだけでなくメロディーはブラジル音楽の大きな土台を作りました。ブラジルのように沢山の文化が融合した国はあまりないのではないのでしょうか。南国の大きな大地で、各国の文化の良いところを見せ合っ取り入れあったのです。

一つの文化を掘り下げていく方法もありますが、私の知っているブラジル人は、誰とでも同じように共有し合ったのです。そこには、格式もなく、メヌエット、オペラ、カンツォーネ、ソウル、ボレロ、ジャズ、アフリカのリズムが交わって、本来あるべき音楽のあり方があったからこそ、世界に誇れるブラジル音楽が誕生したのだと思います。

ブラジル人はよく言います。「私の心は緑と黄色よ」って。今私は、日本の歌も歌い、最近ではロック、ディスコミュージックにも挑戦しています。でも心の中にはいつも大きなブラジル音楽の土台があり、父と母の温もりも感じながら歌っています。

Meu coração é verde amarelo.

ブラジルに生まれて良かった。



整形手術は自慢アイテム？

ロマンスグレーの落ち着いたたたずまいの旦那さんと、ショートカットに真っ赤なルージュの快活な奥さん。サンパウロのレストランで会ったブラジル人ご夫妻は、まるで父と娘のように見えたが、実際は同い年だった。

「お若くていらっしゃいますね」と奥さんにささやくと、あたりに響く声でこう返ってきた。「それはね、肌をこういうふうにひっぱって、たるまないようにメンテナンスしているからよ」。まるでファッションをほめられたように、誇らしげに「美容整形の効果」を語る様子を、どう反応していいのかわからなかった。「整形技術がすばらしいですね」とほめていいものだろうか。

ブラジル経済成長の「実態」を調べるため、雑誌の取材でサンパウロに飛んだのは2010年のこと。BRICsとして注目され、GDPの成長率も人びとの給与も上がっているというブラジルで、実際に暮らしは豊かになっているのか。

そんなリサーチを進めるなかで、あがってきたキーワー

ドのひとつが「整形手術」だった。サンパウロの病院で、形成外科医にも話を聞いたが、たしかに女性の美容整形が急増していたのだ。決して安い買い物ではない。女性たちは長期ローンを組んで整形する。驚いたことにティーンジャーの娘に整形手術を「プレゼント」する親も増えていた。「かつてはおしりを大きくする人も多かったけれど、最近はアメリカ文化の影響で豊胸も増えているんです」と形成外科医は語った。

サンパウロ大学を卒業後、アパレル会社に勤務する20代前半の日系ブラジル人女性にも話を聞いた。会うなり、嬉しそうに「耳」をみせる。「もうすぐ結婚するんだけど、ウェディングドレスは髪をアップにしたいから、耳を寝かせる整形手術をしたの。すごく痛かったけど、大満足。かわいいでしょ？」

私には「耳の形へのこだわり」がよくわからなかったのだが、幸せいっぱいの彼女の笑顔を見ていたら、「整形よかったね」と声をかけてあげたくなった。

ジャーナリストの旅路

私を育てた「ブラジルらしさ」

「ブラジルは多様な国籍の人々が集まり、平和に暮らす国だ」「両腕を広げて難民を迎え入れる」

9月7日のブラジル独立記念日。ルセフ大統領はシリア難民を積極的に受け入れる姿勢を示した。

多様性が認められる国、温かく他者を迎える国。ブラジルに、若い頃に触れられて本当によかった——。改めてそう思った。

私が日本ブラジル交流協会の研修生として渡航したのは1992年、21歳の時だった。

「豊かな国、日本の人間として、世界にどう貢献できるか」。志だけは高かった。だがポルトガル語もろくにできない。貢献できる技能もない。ただの木偶の坊に、多くの人が根気強く、優しく接してくれた。

様々なことを学んだ。

米ドルは、絶対に街角で見せてはいけない。紙幣を財布に入れる時は、少額のをを外側に。そもそも多額のカネは持ち歩かない。ジーンズの後ろポケットに財布は入れない。電車やバスに乗る時はリュックは前に——。治安が悪い中での身の守り方は、特派員生活でも大いに役立った。

中東レバノン料理を食べたのも、イタリア料理のニョッキを食べたのも、沖縄そばを食べたのも、サンパウロが初めて。リベルダージは第2の故郷になった。

インフレ率が月30%近かった時代。人々は給料をすぐに米やフェジョンに換えて暮らしを守っていた。デノミも経験した。大統領の汚職に怒った人々は街頭に出て、デモを繰り返していた。「ブラジルを愛するから、政府を批判するのだ」と。国家と政府と国民と民族。日本では、ともすれば混同されがちなものが、すべて別々のものなのだ、と教えられた。

経済や政治が大混乱に陥っていても、人は明日に希望を持ち、友と笑い合って生きられることを学んだ。

20年以上が過ぎた。日系ブラジル人の「デカセギ」ブームも、リーマン・ショックで吹き飛んだ。日本はあの頃より内向きになったと感じる。国の浮沈を我がことのようにとらえ、他国に対し、排外的な中傷を繰り返す人々もいる。

だからこそ、自分の中の「ブラジル」を大事にしたい。あの頃のブラジルの人々のように、目の前の他者に優しく両腕を広げたい。



レジーナ・カゼー主演の コメディ風ドラマ映画が 大評判に！

岸和田仁（『ブラジル特報』編集人）

ブラジルの政治や経済に関しては、最近超辛口の論調が目立つウォール・ストリート・ジャーナル (WSJ) であるが、8月27日の同紙映画評欄で、「家族、愛、階級の関係を描いたドラマティック・コメディとしては稀有の秀作」と、激賞されたのがブラジル映画であった。このWSJに限らず、欧米やブラジルのメディアやうるさ型批評筋も概ね好意的なコメントを加えていて、しかも一般公開されるや観客動員数でも数十万人レベルを突破（フランスとイタリア両国だけで20万人以上とか）している、という話題の映画は、『ケ・オラス・エラ・ヴォルタ（彼女は何時に帰る）』（英語タイトル『ザ・セカンド・マザー』）である。この監督はテレビの教育番組や映画の脚本家として活躍してきたアンナ・ムイラエルチ、主演はレジーナ・カゼーだ。

レジーナ・カゼーといえば、グローボTVの日曜バラエティー番組「エスケンタ！」の名司会役を2011年からこなしているので、ブラジル人なら誰でも知っている女優・コメディアン・マルチタレントであるが、日本人にとっては、佳作『私の小さな楽園』（原題：『エウ、トゥ、エレス』2000年、日本公開2003年）で三人のダンナと平等に生活する肝っ玉母さん役を演じた女優として記憶に残っているだろう。彼女をご存じない人のために、あえて安易な比較を試みれば、ゴッド姉さん和田アキ子のブラジル版（で体型は豊満型）、といえはわかりやすいかもしれない。

この115分の長編映画が話題になったのは、今年に入ってからだ。まず、今年2月のサンダンス映画祭に出品したところ、主役レジーナと彼女の娘役を演じたカミーラ・マルジラの両名が最優秀演技賞を受賞した。さらに、3月のベルリン映画祭でも特別賞を受賞したばかりか、上映後、観客総立ちのスタンディングオベーションが6分間も続いたことで、さらに注目を集めることになった。

この勢いで、来年2月のアカデミー賞(外国語映画部門)にノミネートされるかも、とブラジルのメディアや米国の映画関係誌が報じていたが、ブラジル政府(文化省)は9月15日付け官報にて、この『ザ・セカンド・マザー』

をアカデミー賞候補作のブラジル代表とする、と発表した。という次第で、関係者はいささか興奮気味の日々を送っている。

この映画のストーリーを若干追いかけておこう。レジーナ演じる主人公ヴァルは、ペルナンブーコ州の貧困家庭出身で、自分の娘ジェシカを父親の元において、サンパウロへ出稼ぎに。多くのノルデスチ出身女性と同様、彼女が得た仕事は、高級住宅街に住む裕福な家庭での住み込み家政婦だ。ご主人のカルロスは資産家の親の遺産を受け継いだボンボン、配偶者のバルバラはキャリアウーマンのファッション・デザイナーという設定で、一人息子のファビーニョにとってヴァルは“第二の母親”以上の存在となっていく。13年の年月が経過して、ファビーニョが大学を受験する時期となり、一方、ヴァルの娘ジェシカもサンパウロの大学の建築学部を受験するべくカルロス宅に短期滞在することになる。古い格差意識を有するヴァルはジェシカも小さな女中部屋で寝かせようとするが、そんな意識のないジェシカは客人として客間で寝ると主張して、トラブル発生。といった問題が連発して起きることに。貧しい東北部ノルデスチと豊かな南部というブラジルの社会問題が、このカルロス家における家政婦の親子ドラマを通じて見えてくる、という構図だ。

この映画は、家政婦を雇う側と雇われる側との階級関係を、コメディタッチで描く社会ドラマと分類できるだろうが、レジーナの演技力がそんな類型的な解説を吹っ飛ばすほどのパワーを有しているからこそ、玄人筋にも一般映画ファンにも受けがよいのだろう。

ちなみに、監督についての芸能誌的な“追加情報”をメモしておく、父親はTVクルツーラの元幹部(理事)で、三人娘の長女であるアンナ監督は、51歳のシングルマザーで、二人の息子(20歳と15歳)の父親はそれぞれ別。彼らの子供時代に雇っていた家政婦が、ヴァルのモデルとなった由だ。つまり、私小説ならぬ“私映画”といえるかもしれない。といった俗界の関心はともかく、日本でも公開してほしいものだ。

省庁統廃合と関係閣僚の進退

10月2日、ルセーフ大統領は、連邦政府の省庁統廃合とともに、関係閣僚の人事交替について発表を行い、5日、大臣の交替・就任(辞令交付)が行われた。概要以下のとおり。(ブラジルでは統廃合によるポストの新設・廃止・統合等は、大統領令により措置可能な仕組みとなっている。)

1. 廃止される省庁

大統領府戦略担当庁が廃止される。

2. 閣僚級ステータスから格下げされる省庁

大統領府安全保障室長官が閣僚ステータスを喪失する。現長官は次官級職として続投。

3. 統合される省庁

①労働雇用省と社会保障省の統合：統合後の「労働社会保障大臣」には、ロセット大統領府官房長官(労働者党(PT))が就任する。ガバス現社会保障大臣は社会保障担当次官に転任し、現大統領府特別補佐官が労働担当次官に就任する。

②漁業養殖省の廃止：従来の同省漁業分野は農務省に統合され、養殖分野は農村開発省に統合される。現漁業養殖大臣は、大統領府港湾庁長官に転任する。

③大統領府人権庁・同人種平等促進政策庁・同女性問題庁の統合：これら3庁が統合され、統合後に誕生する新大臣にはゴメス現人種平等促進政策庁長官(無党派)が就任する。現女性問題庁長官は大臣としては退任し、降格された女性問題担当次官に就任する。現人権庁長官も退任する。

④大統領府零細企業庁の廃止：開発商工省に吸収・統合され、現零細企業庁長官は退任する。モンテイロ開発商工大臣(伯労働党(PTB))は留任し、零細企業庁の任務も同大臣の下に入る。

⑤大統領府政治調整担当庁の統合：議会等との調整役を担ってきた政治調整担当庁は、大統領府官房長官の下に統合される。現政治調整担当長官は退任し、ベルゾイー二現通信大臣(PT)が統合後の官房長官に就任する。

4. 当該省庁は維持されるが、大臣が交替する省庁

①文官庁：メルカダント現文官長(PT)が教育大臣に転任し、ワグネル現国防大臣(PT)が後任の文官長に就任する。

②教育省：リベイロ現教育大臣(無党派、学术界出身)が退任し、メルカダント現文官長が後任の教育大臣に就任する(同文官長は以前にも教育大臣を務めた経緯あり)。

③科学技術省：レベーロ現科学技術大臣(伯共産党

(PCdoB))が国防大臣に転任する。セルソ・パンセラ下院議員(伯民主運動党(PMDB))が後任に就任する。

④保健省：キオロ現保健大臣が退任し、マルセロ・カストロ下院議員(PMDB、ピアウイ州選出、医師)が後任に就任する。

⑤通信省：ベルゾイー二現通信大臣が大統領府官房・政治調整担当長官に転任し、アンドレ・フィゲイレード下院議員(民主労働党(PDT)所属、セアラ州選出)が後任に就任する。

⑥大統領府港湾庁：現長官が退任し、バルバーリョ現漁業養殖大臣(PMDB)が後任に就任する。

5. 構成・勢力配分

①これまでの38省庁が、今回の改革により数としては7省庁の純減となり、31省庁に縮小することとなった(8省庁減、新規設置1省)。

②PMDB所属の政治家が占める閣僚ポストが、従来の6ポストから7に増加した。ルセーフ大統領の課題であった、最大連立与党PMDBの懐柔を通じた議会調整が念頭に置かれている。

③連立与党の中核をなすPTの占める閣僚ポストは、PMDBに対する譲歩として従来の14から10に減少した。

④連立与党のうち、少数派のPTB、社会民主党(PSD)、進歩党(PP)、伯共和党(PRB)、共和国党(PR)、PCdoB、PDTの7党は大臣を1名ずつ有し、残り7省庁については、特定の政党に所属しない人物が閣僚を務めるという編成になった。

6. 省庁統廃合による財政緊縮効果

連邦政府は、今次統廃合の予算削減効果を約2億リアル(約60億円)と算出している。

1～9月の貿易収支は102億ドルの黒字計上

9月の貿易収支は29.4億ドルの黒字となり、1～9月の累計収支は102億ドルの黒字を計上した。昨年同期の貿易収支、7.4億ドルの赤字から一転して大幅黒字となっているが、これは輸金額の減少(▲21.6%)以上に輸入金額が激減(▲32.7%)したため、である。輸数量は前年同期比7.2%増加したものの、国際コモディティー価格の下落によって輸金額はマイナス成長となっているのが現状だ。モンテイロ開発商工大臣は、2015年度の貿易黒字を150億ドル、2016年度は250億ドル、と予想している。

新刊書紹介

◆◆◆◆◆ 新刊書紹介 ◆◆◆◆◆

『ブラジル万華鏡』（日下野良武著）

ブラジル在住 33 年の元サンパウロ新聞社専務による 9 冊目のブラジル雑感集。女性の活躍、2014 年の W 杯、来年のオリンピック、日系社会、などについて綴られたエッセイ群を一冊にまとめたもの。ハイパーインフレ時代からリアル・プランによる経済安定・成長へ、そして最近の経済鈍化まで、そんなブラジル経済の変容を、生活者の視点から軽妙に語っている。「多種多様な色彩を華麗に放つ」ブラジル社会の魅力と問題点がみえてくる。

（熊本日日新聞社 2015 年 7 月 254 頁 1,400 円＋税）

『生きるためのサッカー』（ネルソン松原著）

J リーガーはじめ多くの選手を育成してきた、日系二世ブラジル人のサッカー指導者の自伝だ。両親は北海道出身で、サッカー

留学生として来日したのが 1973 年。札幌、倉敷、神戸の大学、高校、社会人リーグ、J リーグなどでコーチや監督としてサッカーを教えてきた。また、マリナ夫人が理事長を務める CBK（関西ブラジル人コミュニティ）を通じ在日ブラジル人子弟をサポートする NPO 活動も。日伯交流史の生き証人の証言としても貴重な。

『わたしの土地から大地へ』（セバスチャン・サルガド＋イザベル・フランク著）

ドキュメンタリー映画『セバスチャン・サルガド 地球へのラブレター』が映像によって報道写真家サルガドの半生を描いたのに対し、本書はサルガドの語りをイザベル・フランクが文章化した実質的な自伝である。ラテンアメリカからアフリカへ、格差、貧困、民族間殺戮と凄まじい人間の現実をモノクロ写真に記録してきたサルガドが、動物・植物・鉱物を対象とする環境プロジェクト「GENESIS」に到達する。その思索的中間報告ともいえる。

（河出書房新社 2015 年 7 月 236 頁 2,400 円＋税）

『ブラジル日系人経営者・50人の素顔』

（サンパウロ新聞&カンノエイジェンシー共同制作）

サンパウロ新聞に 2014 年 2 月から 2015 年 2 月にかけて 50 回連載された「ブラジルの未来を切り開く日系人経営者」を一冊にまとめたもの。ブラジルで活躍する 40 名と日本で事業活動を行っている 10 名、合わせて 50 名の経営者の半生が緻密な取材を通じて明らかになっている。日本でも知られる有名経営者から日系社会では無名だがブラジル人社会では有名な経営者まで、多彩な日系人の活動記録は、ブラジル現代史そのものである。

（サンパウロ新聞社 2015 年 10 月 400 頁 5,000 円＋税）

『カピバラ 2』（渡辺克仁著）

野生のカピバラは、南米のアンデス山脈の東側、パナマ、コロンビアからブラジル、アルゼンチンまで分布しているが、日本の動物園で人気者になったのは最近のこと。日本在住カピバラもブラジルの野生カピバラもカバーした写真集が本書だが、ミニ事典的解説も楽しいし、巻末にはカピバラがいる動物園のリスト＆ミニ情報も完備している。カピバラたちを眺めていると、癒しの一瞬がやってくることに。

（東京書籍 2015 年 8 月 112 頁 1,400 円＋税）

!!「びっくり豆知識」!!

国連の一般討論演説は常にブラジルが 1 番手

オリンピックの開会式ではギリシャ選手団が最初にスタジアムに入ってくる。古代オリンピックの生みの親だからだ。そのあとアルファベット順に各国選手団が次々現れる。ならば、同じように 200 カ国ものリーダーが集まる国際連合総会の一般討論演説の順番はどうか？ 実は真っ先に登場するのは常にブラジル大統領なのである。2 番目はアメリカ大統領と当初から決まっている。国連本部はニューヨークにあるから「ホスト国」という扱いだ。3 番目以降は年によって変わる。

この順番争いは結構熾烈らしい。各国が事前に事務局に希望を出してくるので、3～4 カ月かけて順番を決めるそうだ。今年の一般討論演説は 9 月 28 日から 10 月 3 日まで行われ、安倍首相も 29 日に演説した。でも、いの 1 番がなぜブラジルなのか。どうやら安全保障理事会の常任理事国入りをあきらめてもらった代償という説が濃厚だ。国連は第二次世界大戦の戦勝国が主導して 70 年前に創設された。「戦勝国」の英米ソ中 4 カ国の「常任理事国」はすぐに決まり、フランスはソ連（現ロシア）が反対したものの英国が推し、現在の 5 カ国になった。

ところが米州の同盟国がないためアメリカが 6 番目の候補としてブラジルの常任理事国入りを主張した。結局ソ連の反対、英国の冷淡な対応で、ブラジルの加入が見送りになったという。

90 年代後半から「戦勝国」と「敗戦国」の色分けをなくそうと安保理改革が熱を帯びてきた。先進国 2 カ国と途上国 3 カ国による“常勤理事国”に改革する案や常任理事国を 6 カ国に増やす案も飛び出した。悪評を買っていた常任理事国の拒否権もすべての改革案で廃止・凍結となっていた。

05 年には、「G4」という常任理事国入りをめざす日本、ドイツ、インド、ブラジルの 4 カ国連合が安保理改革決議案を提出したが、イタリアなどの「コンセンサス・グループ」の反対によって決議案は採択されず、改革議論は先送りになった。

ところで、一般討論演説は 1 国 15 分を限度にしているが、「そろそろ終わり」の警告ランプを見ても無視する人が少なくない。語り草になっているのが何と 4 時間半しゃべりまくったキューバのフィデル・カストロ前国家評議会議長だ。キューバ革命に成功した直後の国連総会だった。

ブラジルは「演説の順番」以外にも国連との関わりが深い。国連ビルの設計者はブラジル人の故オスカー・ニーマイヤーが率いた国際委員会だったし、92 年の国連環境開発会議（地球サミット）ではメーンの会議場がリオになった。もっと言えばブラジルは世界で 10 番目の国連分担金を出しているし、大きな顔をして許されるのではないか。（W）



協会イベントのご案内

参加のお申し込みは、協会ホームページお申し込みフォームにてお願いします。

▶ 年末フェスタ 2015

～ブラジル音楽を楽しみながらの、
ブラジル好きのアミーゴの楽しい夕べ～

今年も、日本ブラジル中協会主催の忘年会を開催！美味しい料理とブラジル音楽生演奏を楽しみながら、語り合しましょう。司会にはモーニング+（BSジャパン）でお馴染みの榎戸敦子キャスター。サンバなどの演奏には、日本のブラジル音楽の父と言われる、フランシス・シルバ率いるCemCruzeiroをお迎えします。



日 時：2015 年 12 月 11 日（金）18:30～

場 所：Park Side Tables（麹町）

住 所：東京都千代田区紀尾井町 3-12 紀尾井ビル 2F
アクセス：東京メトロ有楽町線 麹町駅より徒歩 3 分

日本ブラジル中央協会 ポルトガル語講座

短期集中初心者コース 中途受講者 受付中！

初心者～上級者まで、レベルに合わせ、5 クラスをご用意しております。

これからポルトガル語を学びたいとお考えの方、覚えたポルトガル語を生かし、スキルアップをしたいとお考えの方、是非、ご参加ください。

1 月開講の冬期講座については、12 月に案内開始予定です。

講座のお申し込み・詳細については、協会ホームページをご覧ください。



——— 皆様のご入会、心よりお待ちしております ———

法人・個人  

新規会員募集中

会員数 2015 年 10 月現在
法人会員 約 105 社
個人会員 約 255 名

当協会の活動目的「日本・ブラジル両国間の相互理解、友好関係の促進に寄与する」にご賛同・ご支援頂ける方に、会員となることをご検討いただければ幸いです。

会員特典

1. 協会会報「ブラジル特報」の無料配布
隔月発行、年 6 回配布。
2. 会員価格にて、講演会等のイベント、ポルトガル語講座に、参加できます（会員限定イベントへも参加いただけます）
3. 会員交流懇親会へ参加いただけます
4. ホームページにて、会員限定情報をご覧いただけます

年会費

入会金は不要です

法人会員 1 口 20,000 円 / 個人会員 1 口 10,000 円
(2 口以上) 以上 (1 口以上) 以上

お申込みは
こちらから

《日本ブラジル中央協会公式 HP》

<http://www.nipo-brasil.org>

日本ブラジル中央協会

検索

「ブラジル特報」は一部有名書店の店頭でも入手できます。



イイニク
11/29
OPEN
オープン記念
前日 11 月 28 日まで
ご予約頂いたお客様は、
20%OFF!
予約: www.brasilicagrill.com

ALL YOU CAN EAT | 食べ放題

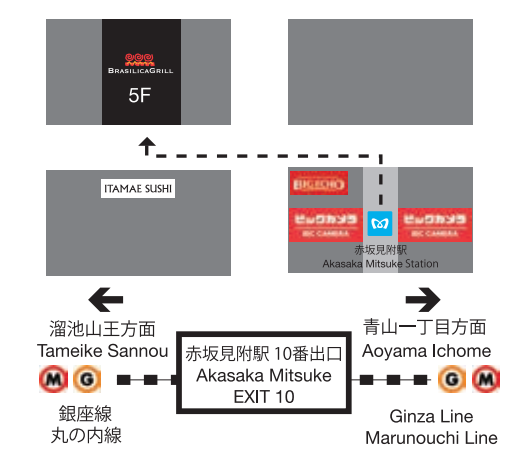
予約: www.brasilicagrill.com

〒107-0052 東京都港区赤坂 3-10-4 赤坂月世界ビル 5 階
Tokyo-to Minato-ku Akasaka 3-10-4 Akasaka Getsu Sekai Bldg. 5F

赤坂見附駅 徒歩 2 分

赤坂駅 徒歩 6 分

永田町駅 徒歩 6 分



溜池山王方面 Tameike Sannou
赤坂見附駅 10 番出口 Akasaka Mitsuke EXIT 10
銀座線丸の内線

青山一丁目方面 Aoyama Ichome
Ginza Line Marunouchi Line



スペイン・中南米との架け橋として20年 スペイン語・ポルトガル語の **イスパニカ**

www.hispanica.org

ことばを学ぶ人にも、ビジネスマンにも、高品質で充実のサービスを提供いたします

通訳 翻訳

ビジネスから文芸まで経験豊富なプロがクオリティの高いサービスを提供

取扱い言語: スペイン語・ポルトガル語
英語・フランス語・ドイツ語
イタリア語・ポーランド語

語学スクール

初心者はもちろん、中・上級者向けコースも充実の溜池山王教室

www.hispanica-academia.org

・通学
・通信添削
・オンライン ※ポルトガル語は通学のみ

書籍の執筆・編集

赴任、出張にはこれ！

安心のカナ発音
英語付き。



ミニマム文法やミニ辞典も掲載。
三修社刊

中南米の情報提供

スペイン通信社EFEの情報をもとに
中南米の最新ニュースを日本語で

・中南米経済速報（週刊）
・政治・治安情報 “CRONICA”
（月～金の毎日）

企業語学研修

ニーズに合わせた効果的な研修
粒ぞろいの講師が、ビジネスを成功に
導く語学学習得をとことんサポート。実
践的なコミュニケーション力を最大限ひ
きかずレッスンをアレンジします。

(有)イスパニカ 〒107-0052 東京都港区赤坂 2-2-19 アドレスビル1F（銀座線・南北線「溜池山王」駅8番出口前）
Tel.03-5544-8335 Fax.03-5544-8336 hola@hispanica.org



本場ブラジルの濃厚アサイーで、 おいしく健康な毎日を。



フルッタフルッタはパラ州のトメアス農協CAMTA
からフルーツ原料を直輸入しています。

製品のご注文は ☎ 0120-265-726

受付時間:
平日9:00～18:00
(土日祝休)

ホームページからも
ご注文いただけます

フルッタフルッタ

検索

www.frutafruta.com

Stay Sustainable!



フルッタフルッタはアグロフォレストリーを通して環境と
経済が共存するグリーンエコノミーを実践しています。

“生きた”ポルトガル語が 身に付く。



ブラジルでビジネスや生活をする上で欠かせないのがポルトガル語です。

BrAsia(ブレイジア)では、赴任前と赴任後の語学研修を提供します。

講師任せにはしない!現地に精通したスタッフが進捗を管理します。

BrAsia(ブレイジア)の研修プログラム

■ 赴任前ブラジル・ポルトガル語短期語学研修(30～50時間)

現地着任前に最低限の準備を! →国内ですべきは独学の準備と自己紹介、タクシー移動もスムーズに!

※企業への講師派遣(首都圏・名古屋地区・京阪神)も可能です。

■ ブラジル異文化概論&マネジメント講座(半日～1日)

ブラジルの文化、ビジネスの課題を解決! →労働争議は日常茶飯事?各分野の専門講師が課題を紐解きます!

ブラジルで学ぶ! 短期語学研修プランもご用意!

■ サンパウロ市内提携先での現地語学特訓コース(3～6か月)

キャンパスライフは不要! できればマンツーマンで語学力を一気に高めましょう!

株式会社漢和塾 BrAsia(ブレイジア)事業部 〒104-0061 東京都中央区銀座1-16-7 銀座大栄ビル5階 TEL 03-4360-8627

お問い合わせはコチラ!

E-mail: brasia@kanwajuku.com HP: <http://brasia-j.com>



BrAsia代表
小川善久

大阪外国語大学
ポルトガル・ブラジル語学科
1987年卒業
この数年、年に2～3回のペースでブラジルに出張。サンパウロはじめ複数の主要都市を訪問。「事件は現場で起きている!」との考えで、研修会社の責任者としてブラジルを奔走中!



新日鐵住金

あらゆるものづくりを支え、
いつの時代も未来を拓く素材の主役、鉄。
その大いなる可能性を極限まで追求し、
日本と世界の発展、そして豊かな社会の創造に
貢献することが、私たち新日鐵住金の使命です。
世界最高水準の技術とものづくりの力で、
もっとグローバルに、もっと先進の鉄へ。
「総合力世界No.1の鉄鋼メーカー」をめざす、
私たちの挑戦に限りはありません。

www.nssmc.com

限
り
な
い
鉄
の
未
来
を
め
ざ
す
。



世界の鉄へ

しんにつつすみきん